

自立活動だより

令和3年12月24日(金)
福島県立聴覚支援学校会津校自立活動係
第3号

経験を通して考える力を！



明日から冬休みが始まります。冬休みは、年末年始ならではの年中行事や風習がたくさんあります。9月に校内研修でお招きした東北福祉大学教授 大西 孝志 先生の講演会で、「思考力（考える力）は、経験を通して身に付くものです。」というお話がありました。経験を言葉の力、考える力に結びつけるために、次のような視点で関わるのが大切です。冬休み中に経験できそうなことを例として挙げますので、ご家庭でも意識していただければ幸いです。

1 経験させる

【例】もちつき 大掃除 年賀状を書く・もらう お正月飾りを飾る 除夜の鐘をつく(きく)
年越しそばやお節料理を食べる(作る) 春の七草を買う お年玉をもらう など

2 経験に言葉を載せる・題名をつける

- ・経験しているそのときに、「おもちをまるめようね。」「年賀状をポストに入れよう。」
「このお節料理は〇〇というよ。」などと言葉をかける。
- ・日記(絵日記)を書いた時に、その日のできごとに題名をつける。



【例】・大掃除の手伝いをたくさんしたことをかいた日記に「がんばった大掃除」と題名をつける。
・年賀状をもらったことをかいた日記に「〇まいの年賀状」と題名をつける。
・今年の目標を家族と話すときに「目指せ〇〇名人」と話す内容に題名をつける。 など

3 経験に気持ちや心情を結びつける

- ・クリスマスのプレゼントやお年玉をもらったときに「どんな気持ち？」
「どう思う？」などと気持ちを聞いてみる。
- ・兄弟姉妹の様子や表情から「どんな気持ちだと思う？」と予想するように促したり、「嬉しそうだね。」「怒っているみたいだね。」など前後のできごとから感じられることを親子で話したりする。



4 物事を考え、判断するときの物差しを育てる

- ・年齢の予測や価格の予測、時間の予測など、比べる基準を知らせて考えさせる。

【例】・地球の歴史を24時間だとすると、人類が過ごした時間はどのくらいだろう。

・去年のお正月にももらったお年玉は〇〇円だったね。今年は何のくらいもらえるかな？

2 学期の活動より

2 学期も自立活動の時間に、様々な取り組みをしてきました。10 月には、福島県聴覚障害者協会会津支部の皆さんと全国手話通訳問題研究会福島支部会津班の皆さんのご協力を得て、手話に親しむ自立活動の学習を行いました。

3 つのグループに分かれ、手話によるクイズを通して、海の生き物や昔話に登場する人物、日常生活の微妙なニュアンスなど、様々な手話の表現を教えてくださいました。また、日本の昔話を手話交えて演じていただき、豊かな手話表現の世界に触れ、手話を用いたやりとりの楽しい時間となりました。



手話や身振りをを用いることで、聞こえにくさのある子どもたちに日本語の意味が伝わりやすくなります。また、指文字で確かめることで、子どもたちに日本語の音韻を意識させ、音声情報の曖昧さを補うことができます。手話や身振り、指文字で表すときには、必ず音声も合わせて伝えることが大切です。音声言語と合わせて用いることで、視覚的な情報も活用しながら、聞く力や声を育てることになります。

冬休み中の会話で触れてほしい言葉

聞こえにくさがあると、周囲の人が何気なく使っている言葉を聞いて覚えることが難しいと言われる。誰もが知っていることを、大人になっても知らないままだった…などということがないように、お子さんの実態に合わせて、会話に取り入れていただければと思います。

幼稚部～小学部低学年向け

《 冬の行事 》

年末年始、大晦日、年越しそば、除夜の鐘、元旦、お年玉、年賀状、お節料理、鏡餅、お雑煮、おとそ、十二支(子、丑、寅、卯…)

《 冬の運動やあそび 》

雪だるま、雪合戦、スキー、そり、かまくら、たこあげ、かるたとり、すごろく、福笑い など



小学部高学年向け

《雪の種類》ぼたん雪、粉雪、みぞれ、吹雪…

《お正月》初〇〇(初日の出、初詣、初売り…)

お節料理の中身(栗きんとん、昆布巻き、煮しめ、紅白かまぼこ、黒豆、数の子…)

※どんな願いが込められているのか、由来もわかるといいですね。

《春の七草》せり、なずな、ごぎょう、はこべら…

《親戚関係》いとこ、おじ、おば

《冬の運動や遊び》百人一首、羽子板、冬のオリンピック種目 など

